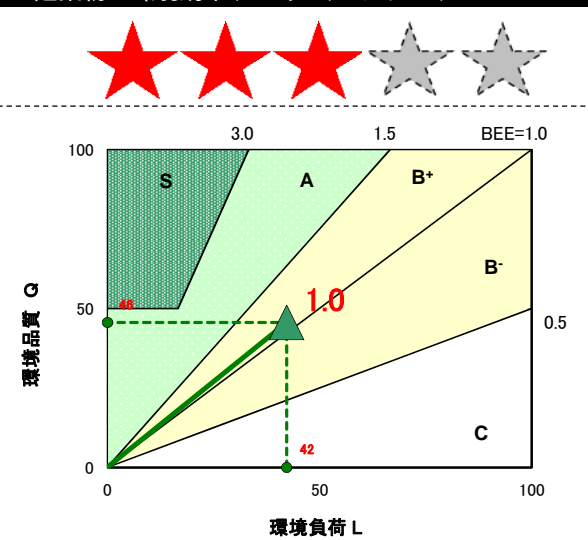


# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)菊陽町高橋Hマンション	階数	地上10F	 ださい。	
建設地	菊陽町熊本市計画事業菊陽第二	構造	RC造		
用途地域	工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	86人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2019年3月5日		
敷地面積	1,227㎡	作成者			
建築面積	264㎡	確認日	2019年3月8日		
延床面積	2,237㎡	確認者			

## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L


BEE = 1.0

■ BEE (環境効率) =  $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能 (ランク表示)



排出率


**81%**

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

**70**

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

## 2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価	評価点
<p>【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進</p> <p>【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現</p> <p>【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全</p> <p>【重点事項4】 循環型社会の実現</p>	<p>評価点</p> <p><b>84.2</b></p> <p><b>52.5</b></p> <p><b>62.5</b></p> <p><b>66.7</b></p>

※評価点は、100点以上が推奨です。

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)菊陽町高橋Hマンション	階数	地上10F
建設地	菊陽町熊本都市計画事業菊陽第二	構造	RC造
用途地域	工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	86人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2019年3月5日
敷地面積	1,227㎡	作成者	
建築面積	264㎡	確認日	2019年3月8日
延床面積	2,237㎡	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 81% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 81%

④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

### 3 設計上の配慮事項

#### 重点事項総合評価

評価点 = 70

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 84.2	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 52.5
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 62.5	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 66.7

#### 重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

省エネルギーに努め、地球温暖化防止に配慮している。安全に配慮しながら、全体から細部にわたり汎用品を採用し無駄のない設計をしている。

### Q1 室内環境

屋外の光を部屋の中に積極的に取り入れると共にバルコニーやカーテンによりまぶしさへの対策を行っている。化学汚染物質の最小化及び換気量を確保している。

### Q2 サービス性能

耐用年数の永い材料を使用し、建物が長期間使用できるよう配慮している。節水器具を採用し、水資源の保護に努めている。

### Q3 室外環境（敷地内）

周囲の建物に近い色彩により、景観を損ねないように配慮した。

### LR1 エネルギー

LED照明器具を採用し省エネルギーを図っている。各住戸の採光と通風を確保する配慮をしている。

### LR2 資源・マテリアル

分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。

### LR3 敷地外環境

ライフサイクルCO2を削減し、地球温暖化防止を図っている。駐車・駐輪場を確保し、周辺の交通渋滞緩和に努めている。

### その他

特になし

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>					0.40		-		<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>				-	0.15	<b>3.1</b>	1.00		<b>3.1</b>
1.1 室内騒音レベル				-	-	<b>3.0</b>	0.50		
1.2 遮音				-	-	<b>3.2</b>	0.50		
1 開口部遮音性能				-	-	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		置き床ユニット:Lr-45		-	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音				-	-	-	-		
<b>2 温熱環境</b>				-	0.35	<b>3.0</b>	1.00		<b>3.0</b>
2.1 室温制御				-	-	<b>3.0</b>	1.00		
1 室温				-	-	-	-		
2 外皮性能				-	-	3.0	1.00		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				-	-	-	-		
2.3 空調方式				-	-	-	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.0</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00		<b>3.8</b>
3.1 昼光利用				<b>3.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	0.50		
1 昼光率		2.0%≤昼光率:2.40%		-	-	5.0	0.50		
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備				3.0	1.00	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				-	-	<b>4.0</b>	0.50		
1 昼光制御		カーテン+庇によりグレアを制御		-	-	<b>4.0</b>	1.00		
3.3 照度				-	-	-	-		
3.4 照明制御				-	-	-	-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.0</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00		<b>4.0</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	0.63		
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				-	-	<b>4.0</b>	0.38		
1 換気量		基準法の1.2倍以上の換気量を確保		-	-	4.0	0.33		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が床面積の1/6以上を確保		-	-	5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				-	-	3.0	0.33		
4.3 運用管理				-	-	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				-	-	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-		<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>				<b>1.6</b>	0.40	<b>3.2</b>	1.00		<b>2.9</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>1.0</b>	0.40	<b>4.0</b>	0.60		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		各住戸で100Mbitクラスのプロードバンドが利用可能		-	-	4.0	1.00		
3 バリアフリー計画				1.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40		
1 広さ感・景観				-	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.0</b>	0.30	-	-		<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.1</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		使用量上位3種のうち、2種以上にB以上を使用、Eの使用なし		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				<b>3.2</b>	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、浸水の危険なし、CATVの導入		4.0	0.20	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.8</b>	0.30	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				-	<b>2.6</b>	0.50	
1 階高のゆとり				-	<b>3.0</b>	0.60	
2 空間の形状・自由さ				-	<b>2.0</b>	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>2.8</b>	1.00			
1 空調配管の更新性			<b>3.0</b>	0.20			
2 給排水管の更新性			<b>2.0</b>	0.20			
3 電気配線の更新性			<b>3.0</b>	0.10			
4 通信配線の更新性			<b>3.0</b>	0.10			
5 設備機器の更新性			<b>3.0</b>	0.20			
6 バックアップスペースの確保			<b>3.0</b>	0.20			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>1.8</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30			<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40			<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30			<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>2.0</b>	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50			
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-			<b>3.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20			<b>3.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10			<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.88 高効率照明器具の採用	<b>4.4</b>	0.50			<b>4.4</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20			<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価				-			
4.1 モニタリング				-			
4.2 運用管理体制				-			
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00			
4.1 モニタリング			<b>3.0</b>	0.50			
4.2 運用管理体制			<b>3.0</b>	0.50			
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20			<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無			<b>3.0</b>	1.00			
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-			
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.8</b>	0.60			<b>2.8</b>
2.1 材料使用量の削減			<b>2.0</b>	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			<b>3.0</b>	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	<b>3.0</b>	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	<b>1.0</b>	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			<b>2.0</b>	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げ材が容易に分別可能+再利用できるユニット部材	<b>5.0</b>	0.20			
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20			<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70			
1 消火剤			-	-			
2 発泡剤(断熱材等)			<b>3.0</b>	1.00			
3 冷媒			-	-			
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率:81%	<b>3.7</b>	0.33			<b>3.7</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.9</b>	0.33			<b>2.9</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.7</b>	0.25			
1 雨水排水負荷低減			<b>3.0</b>	0.25			
2 汚水処理負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25			
3 交通負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制			<b>2.0</b>	0.25			
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33			<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40			
1 騒音			<b>3.0</b>	1.00			
2 振動			-	-			
3 悪臭			-	-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40			
1 風害の抑制			<b>3.0</b>	0.70			
2 砂塵の抑制				-			
3 日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.30			
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			<b>3.0</b>	0.70			
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			<b>3.0</b>	0.30			

建物名称 (仮称)菊陽町高橋Hマンション

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		70
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
<b>① 温室効果ガス排出量削減の推進</b>				84.2	0.40	33.68
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.4	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
<b>② 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				52.5	0.20	10.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
<b>③ 県の地域資源の有効活用と保全</b>				62.5	0.20	12.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
<b>④ 循環型社会の実現</b>				66.7	0.20	13.34
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.1	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数